



# 日本国際教育学会

## JIES NEWSLETTER

January 2019 No. 30

### ニューズレターダイジェスト

- 学会長挨拶
- 第1回学会賞
- 第29回大会報告
- 第29回総会報告 【一部非掲載】
- 決算報告及び予算 【非掲載】
- 『国際教育』第25号原稿募集
- 第30回記念大会のお知らせ
- 創立30周年記念論集のお知らせ
- 国際シンポジウム特別参加のご案内
- 2018-2019年度 学会役員一覧
- 事務局だより 【一部非掲載】



第29回大会 公開シンポジウム

「外国人留学生と国内学生の「混住寮」における  
教育的機能を考える」

### 学会長挨拶

学会創立30周年に向けて

第29-30期会長 佐藤千津（国際基督教大学）

昨夏の役員改選により、第29-30期の会長を拝命いたしました。第27-28期は会長就任時に重点課題を設定し、微力ながら新しい課題にも取り組んでまいりました。学会創立30年という大きな節目を前に、大役をお引き受けする責任を改めて感じますが、学会の更なる発展に向け、今期も全力で務めさせていただきます。

思い返せば 10 年前、20 周年を迎えた時の前田耕司第 19-20 期会長が「学会というのは 30 年経ったときに学会としての品格が問われる」とニューズレター第 22 号に記されております。加えて 30 周年に向けた会長の務めとして「全国的に高い認知度が得られるような学会にすること」と「若い研究者にとって希望の持てる学会になっているようにすること」の 2 点を挙げておられます。顧みるに、会長をはじめ、先達諸氏のリーダーシップにより、これらについては過去 10 年で大きな成果を上げることができたと思います。その一端は、全国はもとより海外からも選出された今期理事の多様性に見ることができるのではないのでしょうか。また本学会は若手研究者が比較的が多い学会ですので、その活力に期待し、各種の委員会委員・幹事を若手会員にも委嘱しております。委員会活動などを通じて若手研究者のニーズを学会運営に反映させながら、より魅力のある学会活動を推進してまいります。

さて、2019 年は創立 30 周年を記念するイベントが多数予定されております。まず、「学会創立 30 周年記念論集」を明石書店より 2020 年に刊行する企画を進めております。記念論集に掲載する投稿論文を公募しますので、是非ご検討下さい。

次に、国際交流担当の楊武勲理事の発案により、台湾の国立暨南国際大学における国際シンポジウムへの特別参加企画を 4 月に予定しております。

さらに、記念大会となる第 30 回大会は、田中潤一理事を大会実行委員長として京都の大谷大学で 9 月に開催されます。京都での開催は同志社大学での第 10 回大会以来、20 年ぶり 2 回目となります。大谷大学は 1665 年に京都に開創された東本願寺の学寮を前身とし、仏教精神に基づいた人間教育で知られる伝統ある大学です。記念大会では公開シンポジウムを 2 本立てとし、国内外から著名な専門家を招いて、仏教の国際化と教育をテーマとするシンポジウムに加え、国際教育学の課題と方法を検討するシンポジウムを企画しております。記念大会にふさわしいプログラムを予定しておりますので、ご期待下さい。

その他、記念事業の詳細は本紙や学会ホームページなどで随時案内してまいりますので、積極的にご参加いただければ幸いです。

これからの 2 年間、皆様と有意義な時間を共有できますことを楽しみにしております。今後ともご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 第1回学会賞

### 第1回日本国際教育学会奨励賞選考に関して

第27-28期学会賞選考委員会委員長  
江原裕美（帝京大学）

日本国際教育学会の第1回日本国際教育学会奨励賞受賞作品には、白幡真紀『イギリスにおける学習と訓練の公共管理システム需要主導アプローチへの転換』（大学教育出版、2015年）が選出された。記念すべき第1回の作品の選考に参加させていただいたことは選考委員全員の大きな喜びである。

本書は、イギリス労働党政権（ニューレイバー）による社会民主主義と新自由主義の止揚をめざした「第三の道」路線に基づき、格差の解消と社会的包摂のために展開された教育・訓練政策を分析しようとするものである。底辺層から抜け出せず社会的な排除の対象となる人々の存在が問題となる中、個人の能力（スキル）の高度化により就労を可能とし経済的向上を達成できるよう、雇用主のニーズや政策重点領域へ焦点を当て、非伝統的な学習者を対象とし、効率性が重視される「需要主導アプローチ」による公共管理システムを作り出すという政策転換について、様々な角度から分析しており、第1回学会賞（奨励賞）の受賞にふさわしい力作である。

本作品の選考にいたるまでは、振り返れば長い道のりがあった。学会賞選考委員会が編成されてから6年を経過している。日本国際教育学会の学会賞、というとき、どのような趣旨で、どのような基準とすべきか、という概念整理のところから出発し、その募集の仕方、選考方法、理事会における承認、授与の仕方といった重要なポイントを一つ一つ解決しなくてはならなかった。任期3回の間に2度の募集を行い、どちらの募集時においても選考委員には、多忙な業務を抱える中で、複数冊の著書を精読のうえ、数時間に及ぶ議論を行ってくださり、誠心誠意、公正な選考のために尽力していただいた。いずれの応募作も、真摯に研究テーマを追究し、先行研究の検討、テーマ設定、研究方法、論理性、独創性に優れており、優れた著作ぞろいで甲乙つけがたい状況であった。応募してくださった会員の方々には、心よりお礼申し上げたい。

こうした段階を踏んで日本国際教育学会奨励賞の授与にいたったことに、選考委員一同、非常に感慨深い思いである。学会賞だけでなく今後の研究進展に期待して励ますという目的で奨励賞の設置が決定されたことは、より多くの会員が学会賞の対象となることを可能にし、今後の研究の発展に非常に意義があることと考えている。

本学会の学会賞は、国際教育学という幅広い研究分野を対象としており、今回の受賞作にも見るように、教育分野専門のテーマに限定せず、多様な教育関連分野を国際的に検討するという学際的な性格も有している。地道な文献解読や、ハードルの高い現地調査やインタビューなど様々な方法を探りつつ、研究の道は険しく長い。学際的な研究力量を要求される国際教育学はその困難もさらに大きいと思料されるが、国際教育学を志す研究者はその壁に挑戦して成果を上げつつある。グローバル化が進む一方でポスト・グローバル化が囁かれる混沌とした世界の状況であるが、このような中でこそ、国際的視野と高い研究能力をふまえた独創性あふれる研究が必要とされるだろう。日本国際教育学会が果たすべき役割は大きい。今日の世界と教育の理解に一層の貢献を行えるよう、今後も学会賞作品が数多く輩出することを心より願っている。

## 第1回日本国際教育学会奨励賞に寄せて

白幡真紀（東北大学・博士研究員）

この度は大変名誉ある賞をいただきまして、誠にありがとうございました。  
今回受賞対象となりました拙著は、2013年3月に学位を取得した博士論文を加筆修正し、  
科研費の助成を受け刊行したものです。執筆にあたりご指導いただいた多くの先生・先輩  
方、学会会員の先生方のご支援、そして家族の存在、と周囲の温かいご指導、ご支援があ  
ってこそ、このような素晴らしい賞を受賞できたものと、心より感謝申し上げます。特に、  
現在アカデミック・ポストを探しながらの子育てと研究の両立を目指す中で、幾度となく  
心が折れそうな時がありました。しかし、本学会でいろいろとお仕事を任せていただく機  
会にも恵まれ、さらにこうして賞をいただくことができ、今後の活動への大変な励みとな  
りました。重ねて御礼申し上げます。

拙著は、修士論文で当時指導教官であった小澤周三先生から2003年に発行されたイギリ  
スのスキルに関する戦略白書の分析を薦めていただいたのがスタートラインとなっております。  
その後、私が博士課程後期に入学し、拙著を上梓するまでの間、イギリスでは社会  
や教育をめぐる大きな転機がいくつもありました。その中で、排除のリスクの高い層に向  
けたスキルや学習のシステムというテーマはますます重要性を増してきたように感じます。  
また、現在イギリスはEU離脱に向けて大きく舵を切ろうとしています。このことが教育シ  
ステムや労働環境にどのような影響を与えるのか、注視していきたいと思っております。

さて、今回このありがたい賞をいただきましたが、これを新たな出発としてまた初心に  
戻り、精進していくつもりでおります。皆様どうか今後とも、よろしくご指導ご鞭撻をお  
願いたします。



学会長と白幡会員（右）

## 第 29 回大会報告

### 日本国際教育学会第 29 回大会報告

大会実行委員長 太田浩（一橋大学）

日本国際教育学会第 29 回大会は、2018 年 9 月 29 日（土）・30 日（日）の 2 日間にわたって一橋大学において開催されました。台風の接近で開催が危ぶまれましたが、80 名（非会員 18 名を含む）の参加を得て、2 つの課題研究発表、公開シンポジウム、全 10 分科会（27 件の発表）を予定通りに実施することができました。2 日間を通じて、活発な議論が行われとても充実した研究大会となりました。

大会 1 日目午前中の課題研究発表 I では、近年、中国語圏の大学で広がっている書院教育の動向に精通した研究者を中国と台湾から招き、「現代書院教育」の理念と実践を論じることで、日本の高等教育への示唆を模索しました。当該書院教育には、欧米の Residential College の要素を取り入れた「寄宿式書院」として「学住一体」、即ち、「学び」と「生活」の融合を目指すものも多いため、午後の学生寮に関する公開シンポジウムの前に行うことで相乗効果があったと思われます。

午後は最初に自由研究発表が 5 つの分科会で行われ、各国の教育問題および国を跨る教育関連の問題について発表がなされました。続いて公開シンポジウムが行われました。

公開シンポジウムでは、「外国人留学生と国内学生の『混住寮』における教育的機能を考える」をテーマに、4 人の登壇者による報告を前半に行い、休憩をはさんで、後半は質疑応答・討論の時間を持ちました。第 1 登壇者の吉田千春氏（明治大学・院生）は、まず海外、特にアジアの混住寮と日本の混住寮の事例における比較分析を行いました。そのうえで、居住のための寮から教育を目的とした寮への転換には、居室を含めた寮全体を居住者が交流しやすいデザインに設計すること、そして、運営側が居住者に対して教育面からの意図的な仕掛けも必要であると指摘しました。第 2 登壇者の阿部仁氏（一橋大学）は、一橋大学国際学生宿舎を事例に、設置当初から現在までの教育機能を高めるための数々の取り組みの軌跡を時系列で資料を交えて発表しました。800 人以上の日本人学生と留学生が居住する混住寮の多様性を学びの場としてどう生かしていくのか、という課題が提起された後、現在 Resident Assistant (RA) を務めている学生が登壇し、学生主体で取り組んでいる多様性トレーニングについて報告しました。第 3 登壇者の辻井英吾氏（立命館アジア太平洋大学）は、混住寮である AP ハウスでの RA 研修も含めて、教育的側面を向上させるための具体的な事例の紹介と課題が提起されました。最後の登壇者であるパク・ミョンマン氏（UR Seoul Residence）は、日本と韓国において自身が経営している混住寮の取り組み事例から、グローバル人材育成の場としての混住寮のあり方について提案がなされました。その後、休憩時間を使って聴衆からの質問用紙を回収したところ、予想を上回る多種多様な質問が集まり、質疑応答の時間だけでは全てに回答できないほどでした。

公開シンポジウムの後半は、回収した質問事項を活用して、混住寮のデザインの工夫、RA の採用基準、教職員と学生協働による混住寮の運営などの質問を中心に登壇者らが意見交換をしました。また、この公開シンポジウムでは、新たな試みとして、図やイラストを用いて会議の状況を表現する「グラフィック・レコーディング」を担当するゲストを招き、登壇者の発表や質疑応答・討論が、その場で可視化できるよう工夫しました。

全体を通じて、一般の方々を含む 130 名強の公開シンポジウム参加者らの混住寮に対する関心の高さがうかがえると同時に、その教育的機能を高めるためには、多くの課題があることを認識しました。混住寮に関する意見交換・情報交換は、その後の懇親会でも続いていました。懇親会には約 40 名の参加者があり、和やかな会となりました。

大会 2 日目は、課題研究発表Ⅱから始まりました。ここでは、国際教育の視点から日本、台湾、タイの学校教育における教育実践とソーシャル・キャピタルの形成との関連について報告が行われ、それぞれの社会・文化的特徴から当該課題について考察が深められました。

午後は自由研究発表が 5 つの分科会で行われ、高等教育や中国の教育問題を中心に様々な発表が行われ、会場の参加者とともに議論する場となりました。15 時には、予定通りすべてのプログラムを終了し、滞りなく閉会することができました。

大会の開催に当たりましては、学会会長、副会長、事務局長をはじめ、理事の皆様、全国の学会会員の皆さまのご支援をいただくと共に、大会運営、司会の担当など多大なるご協力をいただきましたこと、改めて御礼申し上げます。また、吉田尚史（福岡女学院大学）前大会実行委員長からは、大会に運営に関する様々な情報をいただきありがとうございます。最後に、私とともに大会開催のために終始、知恵と労力を惜みなく提供してくれていた本学の秋庭裕子会員、新見有紀子会員、二子石優会員に対し、深く感謝の意を申し上げます。

## 大会の感想

林思敏（台湾・中山医学大学）

私は今回の学会に、自由研究発表者として参加させていただきました。現在台湾に住んでいますが、毎年学会の研究大会への出席と課題研究の参与を楽しみにしております。

私が所属している健康管理学部応用外国語学科では、「医療、商業、観光、教育、通訳などの領域で英語・日本語が活用できる専門的人材を育成する」という教育目標をもって、多様な専門知識で台湾の次世代を育成しています。そこで、私は現在日本と台湾の移民政策と教育課題の研究に取り組んでいますので、今回の研究大会では、各国の教育現状と国際教育に関する最先端の研究内容を聞くことを通じて、大変貴重な情報と刺激が得られるようになりました。とくに、グローバル化と大学の国際化が急速に発展していく中で、「混住寮」がグローバル人材を育成する役割は非常に注目を浴びています。日本、韓国、香港、シンガポールとマカオに大学の調査と考察を通して、大学の国際化の手段の一つとして、「混住寮」の機能と課題が取り上げられました。それによって、ふれあい、異文化接触の場だけでなく、重要な生活の「教育」機能も有することが再認識されました。また、寮の経営管理の視点を見れば、「大学が行う」という固定観念から脱出させ、良質な企業経営でよりよい環境づくりもできるということが強く印象的なものでした。

最後に、今回私は「外国人研修・技能実習制度からみる日本の外国人労働者受け入れ問題について」を発表し、司会者をはじめ、参加者の方々と交流できたことによって、研究の視点をさらに拡大できることを確認しました。ここに大会関係者に深くお礼申し上げます。

## 第 29 回総会報告

日時：2018 年 9 月 29 日（土） 17 時 30 分～18 時 15 分

会場：一橋大学 東 2 号館 2 階 2201 教室

開会の辞  
会長挨拶  
会場校挨拶  
議長団選出

### I 報告事項

1. 2017 年度（2017 年 8 月 1 日～2018 年 7 月 31 日）会務報告
  - (1) 学会（会員数）の現況
  - (2) 2017 年度活動報告
  - (3) 2017 年度決算報告
2. 2017 年度会計監査報告
3. 各種委員会報告
  - (1) 紀要編集委員会報告
  - (2) 紀要電子化推進ワーキンググループ報告
  - (3) 学会賞選考委員会報告
4. 第 29-30 期役員選挙結果
  - (1) 役員選挙の実施及び選挙結果
5. 第 29-30 期理事会体制
  - (1) 新役員及び会務分掌
  - (2) 事務局体制
6. 第 29-30 期各種委員会体制
7. その他

### II 審議事項

1. 会計監査の選任について
2. 2018 年度（2018 年 8 月 1 日～2019 年 7 月 31 日）事業計画
  - (1) 2018 年度活動計画
  - (2) 2018 年度予算
3. 学会創立 30 周年記念事業について
4. 「日本国際教育学会規則」の改正について
5. 第 30 回研究大会の開催日程及び会場について
6. 教育学関連学会連絡協議会について
7. その他

### III その他

議長団解任  
閉会の辞

以上

## 日本国際教育学会紀要『国際教育』第25号原稿募集

日本国際教育学会紀要編集委員会では『国際教育』第25号の発刊に際し、自由投稿研究論文、研究ノート、調査報告、教育情報、資料紹介を募集いたします（2019年3月1日必着）。投稿希望の会員は以下の要領にしたがって投稿してください。なお、第25号の投稿要領の一部が改訂されています。本学会公式ウェブサイト（<http://www.jies.gr.jp/>）の「学会紀要」のページで「編集規程」および「投稿要領」に関する最新情報を必ず確認するようにしてください。

### CALL FOR PAPERS: JOURNAL of INTERNATIONAL EDUCATION, Volume 25

Submissions to the 25th edition of the Journal of International Education are now being accepted, with a deadline of March 1, 2019. Authors making submissions in English should review the Additional Guidelines for English Manuscripts. Any manuscripts not conforming to this procedure will not be accepted. Authors should also refer to the latest version of this procedure in addition to the Provisions for Editing Bulletins of JIES on the JIES website (<http://www.jies.gr.jp/>) before submission.

## 第30回記念大会のお知らせ

大会実行委員長 田中潤一（大谷大学）

第30回大会を下記の通り開催することとなりましたのでご案内いたします。  
本大会は本学会創立30年の記念大会となります。

課題研究と2つのシンポジウムをご用意し、みなさまの学術的関心を引く大会としたいと思っております。また京都での20年ぶりの開催となり、古都の雰囲気も味わっていただければと存じます。多くの会員のみなさまのご参加を心よりお待ちしております。

日 程：2019年9月7日（土）・8日（日）  
会 場：大谷大学 本部キャンパス（京都市北区）  
<http://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq0000000ze8.html>  
アクセス：京都市地下鉄烏丸線 北大路駅すぐ上  
<http://www.otani.ac.jp/nab3mq0000004vfa.html>

### 30th Annual Conference : September 7-8, 2019

Otani University (Kita-ku, Kyoto)

<http://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq0000000ze8.html>

Directions: 1-minute from Kitaoji station on Kyoto subway Karasuma line

<http://www.otani.ac.jp/nab3mq0000004vfa.html>



## 創立 30 周年記念論集研究論文公募のお知らせ

創立30周年記念論集編集委員会

この度、日本国際教育学会は創立 30 周年を記念し、「コミュニティと国際教育」をテーマとする記念論集を（株）明石書店より 2020 年を目途に刊行することとなりました。様々なコミュニティで生起する教育の今日的課題を国際教育学の枠組みにおいて捉え、国際教育の諸課題を考える新たな論点の提示を試みたいと考えています。

本誌には、2019 年の第 30 回研究大会（創立 30 周年記念大会）における記念シンポジウム等の報告や、上記テーマに関する論文に加え、研究論文を公募し、採択されたものを掲載いたします。投稿された論文は、創立 30 周年記念論集編集委員会において厳正に審査のうえ、3 編を上限に採択いたします。以下の要領で募集いたしますので、会員の皆様には奮ってご応募ください。

### 【投稿要領】

1. 応募の際は、学会のウェブサイトからエントリーフォームをダウンロードし、必要事項を記入のうえ、創立 30 周年記念論集編集委員会宛にメールで送信し、申し込む。申込書送付先は後述する。申込と投稿の期限はそれぞれ次の通りである。投稿を希望する会員は必ず応募申込を行うこと。
  - ① 応募申込締切：2019 年 2 月 28 日（木）（必着）
  - ② 原稿投稿締切：2019 年 3 月 31 日（日）（必着）
2. 応募資格は、日本国際教育学会会員（新入会の場合は理事会の承認を得た者）で当該年度までの会費を完納している者（共同執筆の場合も同様）とする。
3. 投稿論文のテーマと内容は日本国際教育学会の活動の趣旨に沿ったもので、「コミュニティと国際教育」に関する未発表の研究論文に限る。但し、口頭発表はこの限りではない。
4. 日本語による研究論文を募集する。
5. 研究論文以外の論稿は募集しない。
6. 本学会の紀要を含め、他の学会誌や研究紀要などと著しく重複する内容の原稿を併行して投稿することは認めない。
7. 偽作、盗作、二重投稿等の事実が判明した場合は、その時点で当該論文の受理、審査、採択を取りやめるものとする。
8. 同一著者による既公刊論文（著書や印刷中の論考を含む）で、投稿論文と内容的に部分的重複が認められるものがある場合には、投稿の際にファイル（PDF）を添付すること。その際に著者名や所属、掲載誌が特定されるような記述は削除する。
9. 原稿（本文や図表）と別紙 1 のファイル（Word 及び PDF）を投稿締切日までにメールに添付して編集委員会事務局に送付する。
10. 論文の著作権などの扱いは本学会紀要の編集規程に準ずる。
11. 本投稿要領に反する原稿は受理できない。

### 【執筆要領】

1. パソコンを使用した A4 判縦置き・横書きで 1 頁 40 字×36 行、10.5 ポイントで作成。分量は 10,000 字以内（図表等を含む）（厳守）。手書きによる原稿は原則受理しない。
2. 審査の公正を期するため、投稿者は次の点に留意する。
  - ① 原稿には氏名・所属機関名等を記入しない。
  - ② 投稿者が特定される情報を原稿中に記入しない。例えば、「拙稿」「拙著」や、科研費番号、謝辞など投稿者名が判明するような記述はしない。
  - ③ 論文本文には冒頭に論文のタイトルやサブタイトルを記す。但し、氏名や所属機関名等は記さない。

- ④ 別紙 1 (A4 判) に論文のタイトルやサブタイトル、氏名、所属機関名・職名、連絡先 (住所、電話、メールアドレス)、キーワード 5 つ以内を記入する。
  - ⑤ 本文、図表、別紙 1 はそれぞれ別のファイル (Word) に保存し、それがわかるようにファイル名を記す。
3. 原稿にはページ番号を付す。
  4. 本文中の年号は西暦を使用し、とくに和暦を必要とする場合は西暦のあとに丸括弧を付し、和暦を記す。  
例) 2018 (平成30) 年
  5. 人名・地名や専門用語の欧文表記が必要な場合は ( ) 内に原綴りを記す。  
例) フィリップス (Phillips, D.)
  6. 引用・参考文献は、論文の最後一括して挙げる。日本語文献は著者姓の五十音順、外国語文献はアルファベット順で配列する。引用書名や雑誌名は『 』(二重鍵括弧)、引用文や論文名は「 」(一重鍵括弧)とする。また、オンラインジャーナル、ウェブページからの引用の場合には入手先の URL 等を記す。
  7. 本文中の引用文献は次のとおりに記載する。  
(ア) 文中の場合：伊藤 (2004) によれば・・・  
(イ) 文末の場合：・・・(伊藤 2004, p. 10)。
  8. 脚注は最小限にとどめ、必要な場合は通し番号を付し、本文中の該当部分には対応する番号を記す。
  9. 図表等を挿入する場合は挿入位置とサイズを表示する。
  10. 提出された原稿の差し替えや返却は行わない。
  11. 特殊な図版や写真等の印刷費用については執筆者の負担とすることがある。

#### 【審査について】

1. 投稿された原稿の掲載は、編集委員 2 名以上の査読者の審査に基づき、編集委員会の審議を経て決定する。なお編集委員会が必要に応じて編集委員以外の会員に査読を依頼する。審査の過程では投稿者に修正を要求することがある。掲載の可否については審査終了後に投稿者に通知する。
2. 掲載が決定した論文については改めて原稿の電子ファイルの送付を求める。
3. 採択が決定した後の修正は原則として認めない。
4. 投稿者による校正は初校のみとする。最小限の字句の推敲にとどめる。
5. 原稿の最終校正は編集委員会の責任において行う。

#### 【掲載料について】

採択が決定した論文の執筆者には 3 万円を上限として掲載料を学会に納めてもらう。

#### 【エントリーフォーム送付先】

創立 30 周年記念論集編集委員会事務局

佐藤千津 (日本国際教育学会創立 30 周年記念論集編集委員会委員長)

送付先メールアドレス：satochizu@icu.ac.jp

※フォームや原稿の提出後 1 週間以内に受領確認メールが届かない場合は、上記編集委員会に必ず問い合わせること。

#### 【編集委員会】

委員長：佐藤千津 (国際基督教大学)

委員：太田 浩 (一橋大学) (五十音順)

小川佳万 (広島大学)

田中潤一 (大谷大学)

服部美奈 (名古屋大学)

前田耕司 (早稲田大学)

幹 事：新関ヴァット郁代 (早稲田大学大学院・院生)

## 国際シンポジウムへの特別参加のご案内

### —自由研究発表の募集—

この度、台湾・国立暨南国際大学のご協力により、同大学主催国際シンポジウムへの本学会会員の特別参加事業を企画しました。この企画は本学会創立 30 周年記念イベントの一環として実施するものです。国立暨南国際大学国際文教・比較教育学科は、台湾で唯一の「国際文化教育及び比較教育」に関する学科として国際色豊かな教育研究を行っています。大学は自然豊かな環境にあり、風光明媚な日月潭にも近い場所です。

シンポジウムの詳細は以下のとおりです。発表のお申し込みやお問い合わせは国立暨南国際大学の担当者に直接に行ってください。会員の皆様の積極的なお申し込みをお待ちしています。

国際シンポジウム：「持続的発展のための国際教育文化的関係の再想像（International Conference on Re-imagining International Educational and Cultural Relations for Sustainable Development）」

日 程：2019 年 4 月 27 日（土）

会 場：国立暨南国際大学（台湾南投縣埔里鎮大学路 1 号）

※会場へのアクセスは国立暨南国際大学のウェブサイトでご確認ください（後掲）。

主 催：国立暨南国際大学国際文教・比較教育学科／共催：台湾比較教育学会 他

〈シンポジウムのサブテーマ〉

1. Construct and reshape the concepts and theories underpinning international educational and cultural relations
2. Analyze the policies on international educational and cultural relations
3. Reflect the practices of international educational and cultural relations
4. Explore the methodology and evaluation of international educational and cultural relations
5. Other education-related issues

#### 【発表申込の方法】

- ① 本シンポジウムの分科会における自由研究発表を募集いたします。発表を希望される会員はお申し込みください。大会テーマに即した内容を歓迎しますが、それ以外のテーマでも発表できます。
- ② 発表希望者は発表申込用紙の所定欄に必要事項をご記入のうえ、摘要（中国語、日本語、英語のいずれか 300 字以内）とあわせて、2019 年 2 月 24 日（日）までにシンポジウム実行委員会に直接にお送りください。発表申込用紙は以下のサイトからダウンロードしてご記入ください。提出の際は、必ずメールの件名に「2019 International Conference Abstract Contribution」と明記のうえ、実行委員会のメールアドレスにお送りください。なお学会では受け付けをいたしません。

- ・シンポジウム実行委員会（提出先）： [dicencnu@gmail.com](mailto:dicencnu@gmail.com)
- ・発表申込用紙のダウンロード： <https://reurl.cc/ygNXE>  
（国立暨南国際大学内サイト）

- ③ 発表言語は中国語、日本語、または英語とします。
- ④ 発表申込締め切り後、提出された摘要に基づき、シンポジウム実行委員会にて厳正に審査を行い、8件を上限に採択いたします。審査結果は2019年3月8日（金）にメールで申込者に通知いたします。
- ⑤ プログラム編成の都合上、発表内容や使用言語等に関してお願いをすることがございますので、予めご了承ください。
- ⑥ 発表が採択された会員には、2019年3月31日（日）までに発表論文の全文（Word）とパワーポイント（PPT）のファイルを提出していただきます。これはシンポジウム当日にプログラムとCDに収めた論文集（全論文）として配付いたします。
- ⑦ 本学会会員のシンポジウム参加費は無料です。また当日の昼食と懇親会も無料で参加できます（いずれも国立暨南国際大学による費用負担）。但し、シンポジウム参加に係るそれ以外の費用（交通費・旅費、宿泊費、旅行保険料など）はすべて参加者の負担となります。宿泊先や交通手段の手配・予約も各自の責任において行ってください。

【お問い合わせ先】

本学会国際交流担当 楊武勳理事（国立暨南国際大学教授）：whyang@ncnu.edu.tw  
大会 HP： [https://www.ced.ncnu.edu.tw/about/index.php?index\\_m1\\_id=22](https://www.ced.ncnu.edu.tw/about/index.php?index_m1_id=22)



## 2018-2019 年度 日本国際教育学会役員一覽

### 理事会

役職	氏名	所属	担当
会長	佐藤 千津	国際基督教大学	
副会長	小川 佳万	広島大学	
理事	岩崎 正吾	早稲田大学	学会賞
同	太田 浩	一橋大学	研究大会 (第 29 回)
同	大庭 由子	安田女子大学	ニューズレター
同	金塚 基	東京未来大学	研究
同	北野 秋男	日本大学	紀要
同	栗栖 淳	国士舘大学	紀要
同	坂内 夏子	早稲田大学	事務局
同	白幡 真紀	東北大学 (博士研究員)	総務
同	田中 潤一	大谷大学	研究大会 (第 30 回)
同	服部 美奈	名古屋大学	紀要
同	前田 耕司	早稲田大学	研究
同	Zane Ma Rhea	Monash University	国際交流
同	楊 武勳	国立暨南国際大学	国際交流
同	吉田 尚史	福岡女学院大学	規程

### 事務局

役職	氏名	所属
事務局長	坂内 夏子	早稲田大学
事務局次長	黒木 貴人	広島文化学園短期大学

### 会計監査

役職	氏名	所属
会計監査	田中 達也	釧路公立大学
同	西村 貴之	北翔大学

### 各種委員会

役職	氏名	所属
紀要編集委員会 委員長	北野 秋男	日本大学
同副委員長	栗栖 淳	国士舘大学

同委員	大迫 章史	仙台白百合女子大学
同	Jeffry Gayman	北海道大学
同	澤田 敬人	静岡県立大学
同	下田 誠	東京学芸大学
同	玉井 康之	北海道教育大学
同	服部 美奈	名古屋大学
同幹事	大泉 早智子	日本薬科大学
同	薩 茹拉	日本大学大学院（院生）
学会賞選考委員会 委員長	岩崎 正吾	早稲田大学
同委員 (紀要編集委員兼任)	澤田 敬人	静岡県立大学
同	森岡 修一	大妻女子大学
同	赤尾 勝己	関西大学
同	福田 誠治	都留文科大学
同幹事	木田 竜太郎	有明教育芸術短期大学
紀要電子化推進委員会 委員長	白幡 真紀	東北大学（博士研究員）
同委員	高橋 春菜	盛岡大学
学会創立 30 周年記念事業企画委員会 委員長	前田 耕司	早稲田大学
同委員	金塚 基	東京未来大学
同幹事	趙 天歌	早稲田大学大学院（院生）
学会創立 30 周年記念論集編集委員会 委員長	佐藤 千津	国際基督教大学
同委員	太田 浩	一橋大学
同	小川 佳万	広島大学
同	田中 潤一	大谷大学
同	服部 美奈	名古屋大学
同	前田 耕司	早稲田大学
同幹事	新関 ヴァット 郁代	早稲田大学大学院（院生）

## 事務局だより

1. 連絡先・所属変更を至急お知らせください。  
所属変更等にもなう会員資格や連絡先に変更がある方は、事務局までメール ([jies\\_jimukyoku@jies.gr.jp](mailto:jies_jimukyoku@jies.gr.jp)) にてご一報ください。
2. 新入会員

2017年度第2回理事会 (2017年12月3日)	2名入会
2017年度第3回理事会 (2018年4月21日)	6名入会
2017年度第4回理事会 (2018年7月30日)	8名入会
2018年度第1回理事会 (2018年9月29日)	5名入会
2018年度第2回理事会 (2018年11月23日)	4名入会

日本国際教育学会 Newsletter No. 30

編集発行 日本国際教育学会 代表 佐藤千津

発行所 〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1  
早稲田大学教育学部 坂内夏子研究室気付

[jies\\_jimukyoku@jies.gr.jp](mailto:jies_jimukyoku@jies.gr.jp)

<http://www.jies.gr.jp>

発行年月日 2019年1月20日